

第十章

「洗脳」の中で生きる人々

■洗脳の仕組みと脱出についての解説

前章で洗脳の事例を紹介してきましたが、次に洗脳の仕組みと脱出について解説していきます。

洗脳や思い込み、トラウマなどからの脱出方法ですが、これを一言で言ってしまうえば実は簡単なことなのです。「〇〇を無くす」これだけです。

一言で言えば三秒間で終わってしまうのですが、それを言っても実際はなかなか実行できません。わかっていてもできません。目の前で答えを聞いて「確かにそうだな」と思ってもできないのです。頭で理解しても、体がいうことをききません。洗脳とはそういうものです。頭で分かっているても、もう体がついていけない、感情がついていけない。そういうところまで脳が汚染されています。ですから少し時間をかけて話していきたいと思えます。

■洗脳されている人間は「必ず人生を楽しく生きてない」

まず最初に覚えていただきたいのは『洗脳されている人間は、必ず人生を楽しく生きてない』ということ。人生を苦しく生きる選択をした」というのが、実は洗脳された人なのです。ですから洗脳から脱出しようと思うなら、逆に「楽しくなければ人生ではない」と決意するのです。

楽しくなければ人生ではない。だからしつかり生きようということ。しつかり生きること（楽

しむこと)もしないで、「私は本当は○○をするはずだった・・・」とか「あんなことをする予定だった。こんなこともする予定だった・・・」という予定表を山ほどつくってしまい、そのまま歳を年を取って死んでいくと、一体どうなるでしょうか?そういうのを自縛^{じばく}霊^{れい}というのです。地球上に未練があるのです。

■老人ホームでの会話を教訓とせよ

老人ホームに行ってみるとわかります。その年寄りと話してみると、どういう話が多いでしょうか?「私は若い頃に何々をする予定だったのよ・・・」と予定表のリストを一杯言ってくれます。つまり成仏できないのです。「私はあんなこともやったのよ、こんなこともやったのよ、だから思い残すこと一切無いのよ、お迎えがくるのを肅々と楽しみに待ってます」と言っている老人がいますか? あんまりみかけません。ですから『楽しくなければ人生でない』このことをしっかり覚えておいて下さい。

■「人生そんなに甘くない」は本当か?

ところが年配の人に言わせると、「そんな考えは甘い」というのです。私(≡天野氏以下同じ)の

親もそういう年代です。私も親から「お前の考えは甘い」と言われました。「甘い」というから「クソォー」と思っって一生懸命働きました。その結果、年収は父親の二倍以上、乗ってる車は三倍から四倍の値段のものとなりました。こういう物量作戦で、父親を力づくで屈服させることに成功しました。そして父親に「あなたは苦しい人生だった、苦しい人生を選択しましたね。そして私は楽しい人生で、楽しい仕事をしてあなたより儲けています」と力づくで押さえ込みました。実際そうなのです。

■「楽しむ人生」がうまくいく理由とは？

実はこのことにも理由はあります。我々は地球人です。皆肉体を持っています。地球人として生まれた以上、地球のシステムの中でしか生きられません。地球のシステムというのは地球の主が決めるわけですが、我々人間はその法則の中でしか生きることができません。

それでは地球システムとは一体どういうものなのでしょう？

それは「地球そのものが肉体を持っている」ということがわかれば理解できるのです。よく見ると地球は肉体の塊です。海あり川あり山あり非常に美しい地球です。動物あり植物あり、人間も男と女がいる。人間も地球のシステムの一部です。だったら人間の肉体で地球という肉体を味わい、楽しむ義務があるのです。実は「散々楽しんだ」というのが人間の義務なのです。

「もう地球を味わうのは充分だ！」と思うくらい楽しみ味合わなければいけません。決して肉体の欲求を否定して生きるべきではありません。単なる禁欲主義は駄目な発想です。お金が欲しい人は儲ける、異性が欲しい人は頑張る。飯を食いたい人はドンドン飯を食う。それでいいのです。地球人として「地球の肉体を楽しむのが義務だ」とはつきりと覚えておいて下さい。

■「禁欲生活をするとうなるか？」の実例

ところで私は以前、統一教会というカルト教団に十年くらい入っていました。二十四歳から三十三歳くらいの間です。統一教会には結婚するまで絶対に異性に触れてはならないという教えがあります。ですから入信していた十年間は、一度も異性の手に触れたことがありませんでした。完璧な禁欲主義でした。

そして、このことを体験してみてもうなつたかを紹介します。

脳というのは不思議なもので、この話をするときよく「大変だったでしょう」と言われることが多いのですが、実は意外とそうでもないのです。

これは実際にやってみなければわからないことですが、二年、三年、五年と禁欲生活を続けていくと、そういう生活に脳が順応していくのです。脳というのは非常に環境に対する適応力が優れていて「こ

ういう異性が無い生活が当たり前」と、脳が環境に順応してくるのです。ですから意外と禁欲生活に對しては、つらかったという思い出はありません。

むしろ異性を見ても「どうせセックスできないんだ」という発想ですから、女性を性の相手として見る習慣が無くなるので、かえって楽だった部分もありました。

■二十代の禁欲生活の結果四十代でどうなったか？

そして、その禁欲生活を送った結果どうなったかというところ、中高年になって、四十五歳を過ぎてもパワーがあるので。性力のパワーがあるので。おそらく性力とは、一生涯で使える量が決まっているので。ポリウムが決まっているのです。それを若いころに使ってないので、パワーが残っているのです。

私は四十代後半からあるスポーツを始めたのですが、同じ年齢の人には負けない自信があります。十代、二十代の若い人にはもちろん負けませんが、明らかにパワーが残っているのです。性欲を十年間使っていないからです。禁欲には一面そういうメリットがあります。

ですから、いたずらに禁欲主義を駄目だというつもりもありません。やってみたい人はやってみれば良いと思います。ただし注意していただきたいのは、無理矢理我慢して「禁欲でなければならな

い・・・」という発想に陥ってしまうと駄目です。散々欲望を満たしてみても、ちよつとまずいなと思つて何年か禁欲する、という感じがいいでしょう。「ねばならない」という発想では駄目なのです。

■洗脳された人間の生活が苦しい理由

禁欲生活を一例として紹介しましたが、何でも「苦しい苦しい」という人は、洗脳されているから苦しいのです。自分の本心ではないところで生きるから苦しむのです。

ですから洗脳されているから被害者というわけではありません。実は加害者です。誰でも本心があつて、その本心のおりに生きればいいのです。ところが、余計な世間体とか、カルト教団の教えとか、テレビや新聞が言つてることとか、心にそういう余分なゴミがいつぱいついてしまい、その価値観でしかものごとを見れなくなつていゝのです。だから苦しいのです。本心のところまで届かないのです。どこかからコピーされてきた価値観でしか生きてないのです。

■脱サラした企業家が感じる「恐れ」の原因

またサラリーマンを辞めて、独立して起業した人と話しをすると、よく「怖い怖い」と言います。このとき何が怖いかというと、世間体や社会の評価が怖いというのです。「怖い怖い」という感情に

支配されてしまうのは、本心で生きてない証拠です。それが苦しさを感じる理由です。そういう人達は、自分自身を立派な人にみせたいから怖くなるのです。私なんかは自分のことを始めから「立派な人ではない」と言いますから、怖くありません。

■東洋的洗脳、西洋的洗脳についての解説

次に、西洋のキリスト教的洗脳と東洋的洗脳について解説します。

洗脳にはこの二つの側面があつて宗教団体、特にカルト教団は両方を使います。例えば統一教会も正式名称は「世界基督教統一神霊教会」というもので、キリスト教的な名前です。しかし、よく研究していくと東洋的洗脳も使っているのです。統一教会の教典の「統一原理」を読むと、東洋的洗脳手法を使っているのがよくわかります。カルト教団は皆そうですが、西洋的なものと東洋的なもの両方を使って洗脳してくるのです。

■東洋と西洋の「救済」へのとらえ方の違い

具体的に解説します。

まずキリスト教とは何かというと、その根底に「救済」という発想があります。自分の外からの

救いのことです。それに対して東洋系の宗教の救済は自分です。自力救済です。例えば仏教には「梵我一如ぼんがいちぢてよ」という言葉がありますが、これは「我は神と一体となる」という意味で「人間が神になる」という教えです。これは西洋の教えとは反対の内容で、西洋的宗教は「神様が人間に降りてくる」という教えなのです。

■西洋的洗脳から「完全二分思考の脳」が完成する

東洋系の宗教では、自らの救いために修行をします。ところがキリスト教ではあまり修行という言葉は使いません。「神に祈れば救ってくれる」という他力本願の救いです。そしてキリスト教の教えには常に悪がいます。キリスト教は善と悪を分ける宗教ですから、どこかに悪を発見しなければならぬのです。悪を発見して殺せ殺せという宗教なのです。

ではその敵は一体誰かというと、敵は「サタン」なのです。

その発想が医学に展開されたのが、前章で詳しく解説したガン治療のやり方です。「ガン細胞が悪いのなら、悪い細胞を放射能で殺してしまえ、ガンの原因はDNAだ。それならDNAでガンになりやすいところを変えてしまえばいい」という、どこまでいっても悪い奴を発見しようとはします。

■東洋的発想から「全体主義の脳」が完成する

それに対して東洋的なものは「周りと強調せよ」という発想が根本となっています。中心人物と一体となれという発想です。これが悪く出ると、「周りの皆と同じことをしなさい」という発想になってしまいます。そしてその結果、世間体を気にするようになってしまいます。必要以上に人の目や人の評価を気にしてしまいます。ですから日本では昔から村八分とかいじめのような「個性をあまり出すな」という風潮があるのです。

つまり全体主義的な思想です。皆と同じでないと不安になります。東洋的洗脳が完成するところになります。「皆と同じでないと不安」こういう人間ができあがりません。こういう脳ができあがってしまふのです。

■常に敵を探し続ける西洋的発想

一方、西洋的発想は、常に敵を発見しなければいけない考えですから、それが政治にあらわれたのが冷戦でした。その時代の敵は共産主義でした。共産主義は神を否定する思想だからです。もしくは非キリスト教も敵として標的になっています。「キリスト教徒以外は悪である」という考えです。はたまた「敵はテロ組織である」「敵はアルカイダである」というように、いつまでたっても敵を永遠

に探し続けます。これがキリスト教的発想なのです。つまり、この思想が固まってしまうと、完全な二分思考ができあがりません。「物事を善と悪で分けないと気が済まない」という二分思考が完成してしまうのです。

■「二分思考」は超エゴイスト人間をつくり出す

二分思考は、全てを善と悪に分けるのですが、それでは自分自身はどちら側なのでしょう？

実は、自分は善なのです。自分は常に善になってしまふのです。他は悪です。頭の中が完全な二分思考になってしまうと、こういう発想のエゴイストができあがってしまいます。超傲慢です。「キリスト教的神を知らないものは、人間としてふさわしくない、奴隷にしてもいい」という発想に陥るのです。ですからキリスト教の発想とは「自分達は優れている」という人間の優越感を強烈に刺激する教えなのです。

■東洋と西洋の両方の洗脳を使う統一教会

統一教会も西洋と東洋の両方の洗脳手法をうまく使っています。例えば何でも善と悪に分けてしまふ。例えば善なるものとは、これを国でいうと韓国です。当然文鮮明が生まれた国ですから韓国

は善になります。アメリカも善です。それに対して喧嘩をふっかけた悪なる国、それが日本、ドイツ、イタリヤです。

また人間も善と悪に分けます。善側と悪側に分けます。「共産主義をやめた」と言ったゴルバチョフは善側です。一方、レーニンやスターリンは悪側です。統一教会を認定した元総理大臣などは善側です。総理大臣も統一教会を否定したら悪側です。全てを善と悪に分類します。そして自分たちはいつも善側なのです。自分たちを認めないものは一切全部悪側なのです。そうやって優越感をくすぐります。はつきり言ってしまうと、この宗教には、自己中心的な奴が洗脳されるのです。

■「二分思考」で優越感を刺激し、気持ちいいと感じさせる

常に自分たちは善ですから、とても気持ちいいのです。自分達以外は悪なのです。この感覚がわかりますか？このことから、どんな人間が統一教会やカルト教団に洗脳されやすいかわかりますか？

それは、劣等感のある奴なのです。劣等感の裏返しに優越感ですから、優越感に浸りたい欲求とは、強い劣等感を持っている証拠なのです。優越感を持ちたいという感情の裏を返すと、心の中身が劣等感の塊となっている人なのです。必ずそうなっています。

そして、そういう劣等感を植え付けたのは大体が親です。親が子供へ、小さい頃から劣等感を植え付けるのです。ですから統一教会に入ってくる人の親子関係はだいたい悪いです。ほとんど悪いです。お父さんお母さん大好きという人はいません。だからどうするかというと文鮮明を真の父、文鮮明の奥さんを真の母と教えるのです。なぜこういう教えが通用するのでしょうか？

それは、実際に生み育てたお父さんお母さんを憎んでいるからです。だから真の父、真の母という響きを聞くと気持ちよくなってしまふのです。

■「子供を統一教会にとられた」という親の思い違い

一方、よく「自分の息子・娘を統一教会に取られた」と親は言ってますが、本当はそうではありません。あなたが駄目だから、子供が真の父母のほうに行つたのです。あなたの子供の教育が失敗して、愛情がなかったから嘘の愛情を持っているところに行つたのです。愛情深い両親のもとに育つた人は、絶対にこういうカルト教団には行きません。

愛情が無い家庭で育つたから行つてしまったのです。取られたではありません。自ら進んで嘘の父、嘘の母のところ行つたのです。「実際に産み育てたお父さんお母さんよりも、こっちのほうがまだまし」そう思つたのです。被害者のふりをしてはいけません。進んでカルト教団に行く子供を親が

つくったのです。だから誰が悪いわけでもありません。自分が悪いのです。

■統一教会の東洋的洗脳手法とは？

またカルト教団は東洋的な洗脳もうまく使います。特に「中心人物と一体となれ」という教えは強力です。つまり教祖と一体となれという教えです。教祖の奴隷になれということです。この洗脳は「周りの皆と同じでなければ駄目だよ」という教えになってしまいます。

ですから実際、統一教会は見事なチームワークで支配されています。一人のカリスマ社長の下に何十万人もの社員がいるのと同じ構図です。統一教会の信者は、ろくでもない親のもとで育っているのです。寂しいのです。そして皆と同じにしていると安心なのです。それで仲間ができるので楽しいのです。楽しいから行くのです。だまされて行くのではありません。楽しいのです。そういうものを楽しいと感じるように育ってしまったのは自分の責任です。自分から進んで行くのだから、カルト教団は悪くないのです。

■カルト教団や悪徳商法に洗脳されやすい人の前提条件

次に行きます。こういうカルト教団に洗脳されたり、悪徳商法に引っかかりやすい人には前提条

件があるので、それを紹介します。これから紹介する条件に当てはまる人は、いろんな洗脳にひっかりやすいので、それを自覚して下さい。

■洗脳されやすい人の前提条件その①「劣等感」

ではその条件とは何でしょうか？

結論を言ってしまうえば・・・『劣等感』を持っている人です。

例えば世間体を気にすることもそうです。世間体を気にすること自体、もうすでに劣等感を持っている証拠です。「自分は劣等感をもっていない」という人は大体が嘘です。少しでも世間体を気にする部分があるなら、既に劣等感を持っています。そして、そういう人は本当に沢山いるのです。

■洗脳されやすい人の前提条件その②「絶対的真理を探している」

また「永遠で普遍的な真理がどこかにある」こう思っている人も洗脳されやすいです。これは事業やビジネスをやっているれば、そんな考えはウソだと見抜けるのです。私も若い頃は、こんなのがあると思っていましたが、実は真理というのはわかったら、もうその時点で古くなってしまふものなのです。「一度発見してしまえばそれで終わり、永遠に変わらない」そんな真理は存在しません。

何か「あつそうだ、これでうまくいくんだ！」と気付いて実行すれば、もうそれは、その時点で古いのです。「真理」とか「本当のこと」とか、そういうものは、どこまで行っても階段状になっていて「わかった！」と思つたら、その瞬間に次の山が迫っているのです。そしてまた「わかった！」と思つたら、また次の山が迫っています。この繰り返しです。この繰り返しだから、永遠の真理とかそういうものは実際は存在しないのです。

■洗脳されやすい人の前提条件③「人は皆不幸であるはず」と思っている人

次は「人間は皆、不幸であるはず」こう思っている（思い込んでいる）人です。こういう人も簡単に洗脳されます。これは、「自分は不幸だ」と思っているからそう発想してしまうのです。「自分が不幸だから皆もそうだろう」という心理状態です。つまり、自分を許してない人です。トラウマを持っている人はだいたいこのパターンです。トラウマを持っている自分を許したり、認めている状態にならないと、外からの情報や人に洗脳されてしまいます。いつまで経っても「お父さんがこうだった、お母さんがこうだったから・・・」と、グジグジ言っている人は自分のことを許していません。意外と会社の経営者にもこういう人間が多いです。

■洗脳されやすい人の前提条件④「自分で自分を救えない」と思っている人

次が、「自分のことは自分で救えない」「どうにもこうにも人生うまくいかない」などの、あきらめの感情に支配されている人も洗脳されます。こういう人も多いです。そこから依存心が発生します。「だから私を助けてよ!」という依存心でいると、「じゃあ助けましょう」とカルト宗教がやってくるのです。カルト宗教は「この世の救い主がいます」とやってきます。「救い主だけがあなたを救済できますよ」と、こんな感じでアプローチしてきます。これは笑い事ではありません。

■マイトレーヤーについて解説する

例えば「マイトレーヤーの使命」というベンジャミンクレームという人が書いた本があります。この本を推薦してる精神的指導者や宗教家が結構多いです。この本には「マイトレーヤーが救世主」と書いてあるのですが、これを結論からはつきり言いますとウソなのです。

こういうもの(マイトレーヤーとかメシヤなど)は依存心の強い人を引っ張ってきます。一年に一回、このベンジャミンクレームの講演が日比谷公会堂であります。凄く人数が集まってきました。そして、そこにやって来る人達は、やはり依存心の強い顔している人ばかりです。私も数回行ったことがあります。ですが、「自分の人生は絶対に自分で開拓してやる」というような決意をしている顔つきの人は一人

もいませんでした。皆依存心の強いやさしい顔をしています。自分自身がそういう依存の状態だから、そういうよくわからないものに惹きつけられてしまうのです。

■実際は、自分のことは自分でしか救えない

ベンジャミンクレームの本によれば、救い主とされるマイトレーヤーにはお父さんお母さんがいません。あの世からやってきたことになっています。マイトレーヤーは、あの世からやってきて、ヒマラヤの山の中で時間をかけて、宇宙エネルギーで自分の肉体をつくったらしいのです。そして今はイギリスのどこかのビレッジに住んでいて、普通の人の生活を送っているというのです。そんなことを書いています。そしていつかテレビでマイトレーヤーが「私がメシヤである」と発表するとも書いてあります。

依存が強い人は、こういうネタにピピンと反応してしまいます。「自分のことは自分では救えない、限界がある」と思っているから魅かれてしまうのです。

ところが実際は、自分のことは絶対に自分でなければ救えません。これが本当です。ですから『自分の救いは、絶対に他人任せにしない』と皆さん決意しましょう。

■洗脳されやすい人の前提条件⑤「自分で真理は発見できない」と思っている人

次に「自分では真理を発見できない」という思い込みのある人。この人も洗脳されます。こういう人は「真理」というものは、自分以外の外部のどこかにあると思っています。そう思っているから、そう思い込んで外側ばかり探しているから、いつまで経っても真理は探し出せません。

今自分に必要な真理というのは、本当は自分の内側にあるのです。「悟りは却下にある」とか言われますが、本当の真理は足元にあるのです。

神は真理を人間の遠いところに置いて「あんたたちには絶対にわからないように置く」ということはしません。実は足元にあるのです。見えないだけなのです。

■「真理は自分で発見できる」の実例『奇跡のリンゴ』

このことは、奇跡のリンゴをつくった木村秋則さんの本を読むとよくわかります。

彼は税金も払えない。子供の給食費も払えないという状態で、どうしようもなくなつて畑で首をくくつてみたものの、自殺に失敗して生き延びてしまったという経歴の持ち主です。彼は長い間、無農薬のリンゴづくりの方法を探していたのですが、最後のヒントは自分の無農薬の畑の中にあつたのです。「その通りにやれ」というサンプルはすぐそばにあつたのです。ところが長い間そのことに気が

つきませんでした。それで十年以上も貧乏生活をしたのです。

木村さんの場合に限らず、それくらい自分の身近に重要なヒントはあるのです。あるけど見えないのです。見えないから外側に探してしまいます。「マイトレーヤーが教えてくれる」という発想になっってしまうのです。ところがこれは間違いです。誰でもどんな人でも自分で真理を発見できるのです。今の自分に必要な真理を発見できます。そして真理に気がつく、次の新しい問題が発生します。そして真理を探します。そして発見する。そしてまた次の真理に気がつくようになります。そうやって、どんどん高いところへ上がっていけるのです。

■洗脳されやすい人の前提条件⑥ 「頭の中が二分思考」

また頭の中が二分思考に陥っている人は、世の中には善と悪があると思っています。「善と悪が対立している」という思い込みをしているのですが、こういう人も洗脳されます。洗脳される人は、往々にして悪を憎んでいます。そして自分は善側だと思っています。だから常に被害者です。冷静に考えると、そんなことは有り得るのでしょうか？、またそういう人は同時に「善側は貧乏をしている」とも思っています。金持ちが悪だと思っています。

ところが本当の金持ちというのは、ものすごく自分の内側を見えています。そして「誰かに頼る」と

か「真理はどこか遠いところにある」なんて思っている人は一人もいません。その代わり自分の内側をよく研究しています。自分のことは自分で救っているのです。そして「人は皆幸福であるべきだ」とも思っています。「永遠普遍的な真理がどこかにある」という思い込みには関心がありません。だから金持ちになるのです。

■西洋思想と東洋思想のそれぞれの欠点

まとめると西洋の思想の欠点は片寄った「二分思考」になってしまうことです。明治以降ほとんどの日本人はこういう発想になっています。意識してでも無意識にでも「まず善と悪とを分けないと始まらない」と思っているようではもう駄目です。実際は善も悪も融合しているのです。善の中に悪があり、悪のなかに善があるのです。

一方、東洋の思想の欠点は片寄った「協調性」です。協調性という名の全体主義主義になってしまふことです。さらに「自分での開運は不可能」というあきらめに陥りがちです。これも駄目です。「だから誰かに頼る」という発想になってしまいます。あくまでも自力開運が基本です。自分でできます。必ずできるのです。

また統一教会を筆頭に、キリスト教的カルト教団などで「悪」とされているものは一体何でしょう

か？

■「淫乱が最大の罪」と思い込んでしまう理由

彼らの教えの中で、最大の社会悪は何かと言うと実は・・・「淫乱」だといっています。淫乱を最大の罪だと教えています。これは一見本当のようにみえます。なぜなら、人間は誰でもそれとなく「自分が淫乱だ」と思っているからです。そう感じているから「自分が淫乱の性質を持っているから、これを無くしたい」という思いになるのです。だから淫乱が悪だと思ってしまうのです。特に潔癖症の人や正義感の強い若い人はそう思い込みやすいです。ところが本当はそうではないのです。

「淫乱」ということに関して、本当は親が教えなければいけません。例えば「淫乱というのは、子孫を残すために神が人間に与えたものだから善であるんだ」と、親が子供に教えなければいけません。しかし、現実には親がきちんと教えてないので、「セックスはしてはいけないこと」とか「性欲は罪である」と子供が思ってしまうのです。「淫乱」という言葉がよく使われていますが、結局「男が女を愛したい、女が男を愛したい」というそれだけのことでです。

たとえば男に家族があるとか、女に家族がある。こんな関係だったとしても男は女を愛したい、女は

男を愛したいというなら、そこに愛があるわけです。愛があれば世の中は幸せになるのです。

■「淫乱」より駄目なのは「無関心」の状態

もし男に家庭がある場合で、不倫相手の女に対して本当に愛があれば、絶対に家庭を壊すようなことはしません。逆に、女の人にも本当に愛があれば家庭を壊しません。実際のところそうなのです。愛があれば壊せません。相手の家庭を壊したい思うのは、もともとその関係には愛が無いのです。浮気をしたから、不倫をしたからといって家庭が壊れるということは、本当は愛があれば無いのです。そんなのはテレビドラマの見過ぎです。現実を知らない人の言うことです。一番の問題は愛が無いことが問題なのです。

聖書にはよく同性愛は駄目と書いてあって、同性愛の街ソドムやゴモラなどは、男が男を愛し、女が女を愛すので神様が怒って滅ぼしたといわれています。しかし、そこにはまだ愛があるのです。相手のことを大切に思う愛があるのです。愛が無い状態よりはいいのです。一番駄目で、どうしようもないのは愛が無いことです。「相手が困っているように、何しようが自分だけよければいい」という無関心の状態。これが一番駄目です。淫乱というのは、一生懸命になって男が女を愛したり、女が男を愛

すのだから、はるかにレベルが上です。無関心で何もしないのが一番駄目なのです。

■「思い込み」の状態が二十年続くかどうか？

続いて「思い込み」の状態が長く続くかどうかになってしまうのか説明していきます。カルト教団の事例が強調されていてわかりやすいので「カルト教団に入ってから十年、二十年経つとどうなるか？」について話を進めていきます。「洗脳」とは極端な思い込みのことだからです。

私が詳しいのは統一教会なので、その現状について話してみたいと思います。

フォーチュンソフト社のお客さんには、はっきり言いますと、昔はオウム真理教の人も多かったです。オウムの人に占いの講義をしたこともあります。

また奥さんを統一教会に取られたという相談も受けたことがあります。奥さんを統一教会に取られた旦那さんが何人か来ました。そういう旦那は「自分は被害者で、どうやったら奥さんを取り返せるんだ」という相談内容ですが、私から見ると「こいつは加害者だ。お前みたいな夫だから嫌になっただけな。統一教会に逃げたんだ」というのが結論です。だから相談相手には「取り返すのは不可能です。お前みたいな夫だから本当は離婚したいが、世間体が悪いからしただけなのです。だから統一教会に行っ

たのです」と答えます。相談にやって来る人は被害者のふりをしてきますが、本当は加害者なのです。愛情がないのです。

オウムの方も多かったです。皆寂しいのです。行くところが無いのです。そこに行けば受け入れてくれるのです。「こんな自分でも受け入れてくれるところがあつた」と言つて行くのです。それだけです。突き詰めれば簡単です。

■入信して十年経つと教義が頭から抜けている

統一教会の教えは「原理講論」という経典の本に全部書いてあるのですが、あるときこれを使つて、統一教会をほとんどやめているけれど、まだ最後の踏ん切りがつかない信者の人に、その本を一頁づつめくりながら、間違いを解説する講義したことがあつたのですが、そのときは驚きました。

その信者はどのくらい経典の内容を信じていると思いますか？

その本は統一教会の聖典なので、私はかなり信じているだろうと思つたのですが、ところが現状は内容自体をよく覚えてないのです。私は笑つてしまいました。これはオウムも同じです。

実は、信者は教えに洗脳されているわけではありません。教えは覚えてないのです。入信して最初は真理を求めて行つたのですが、組織に入つて十年、二十年経つてくると、そういう教えが正しいと

信じている人はほとんどいないのです。信者にいろいろ質問しても何も覚えてないのです。そして統一教会の場合、教義だけでなく文鮮明を救い主とかメシヤだと心の底から思っている人はほとんどいないのです。これが実態です。

■統一教会の信者が教会を断ち切れない理由

例えば、文鮮明の長男は麻薬中毒で死亡したのですが、その長男の元奥さんは文家と完全に縁を切りました。縁を切って「わが父文鮮明の正体」という暴露本まで出しました。完全に文家を憎んでいます。また四女はアメリカでテレビに出て「私の父はメシヤではない」と言いました。さらに続けて「カルト教団である統一教会に入るべきではない」とも言いました。こういう事例は実は相当数あって、実の子であっても文鮮明のことを「本当かな？自分のことを真の父と呼びなさい」とっているけど、真の父にしてはさういふお粗末だな」と当たり前前に思っているのです。

それでも、なぜさういう状態でも信者は組織に残るのでしょうか？

信者は教会から献金しなさいと言われるればお金を持っていくきます。どうしてもかという、信者本人が寂しい人だからです。教会というコミュニティに行けば、自分を受け入れてくれるからです。こんな自分でも「いらっしやい」と受け入れてくれるので行ってしまうのです。それだけです。何にも難

しいことではありません。どこにも行き場所が無い、寂しい人が行ったのだから、受け入れてあげられないのです。受け入れてあげないとずっと悲惨な目に会うのです。

また今のカルト教団はお金がありません。一昔前のようにお金が集まってきました。だから一人の信者にとことんまでお金もってこいと言うのです。ですから真面目な信者であれば自己破産するまでお金持っていくのです。そういうケースが多いです。

■統一教会の教典にある意外に使える部分

こんな感じで解説すると、文鮮明は悪い奴だ、やっぱりカルト教団は存在だと思ってしまうがちですが、ところが一概にそう断定できない部分もあると思います。

先日二十年ぶりに統一教会の聖典といわれる『原理講論』を買って読んでみたのですが、意外といことが書いてあるのです。洗脳を完璧に解いた頭で中身を読んでもみると、意外と使える内容もあるのです。私の場合、二十代の頃は解釈の仕方が幼かっただけのようです。今読むと使えるのです。

例えばその本の中に「神とは何か？」について書かれたところがあります。そこには『神とは二性性相の中和体』と書いてあります。神とは二性の存在で、男であり女であるということなのです。そして教団の教えとは、「人は神に似るべきだと、神に近づくべきだ」というものなのです。

■「神の二性性相」↓ドンドン異性とつきあって恋愛しなさい

それでは神に似るためにどうすればいいのでしょうか？

神が、男でもあり女でもある存在だとすると、この教えは「男は女とつき合いなさい、そして女の人のことを教えてもらいなさい」ということだ、というのが今の私の解釈です。「女の肉体はああなってる、こうなってる、おっぱいこうなってる、下の方のひっこんでるところはこうなってる」と、こんなふうに隅から隅まで研究しなさいといっているのです。研究していいのです。肉体の研究に飽きたら、次はハートの研究をしていけばいいのです。つまり目いっぱい恋をして研究すればいいのです。傷つけたり、傷つけられたり、散々ゴタゴタして研究していけばいいのです。

女の人もそうです。いつまでも男に愛されるのを待っているのではなく、逆に女の人は愛の主体なのですから、ドンドン男のケツを追いかければいいのです。「アイラブユー」と言ってる男のケツを追いかければ、男は「ハイ」と言うのです。統一教会ではこのように教えますが、本当に文鮮明が言いたかったことはこれかもしれません。なぜなら文鮮明自身が本当は奥さんが沢山いるからです。

■「個性真理体」↓万人に共通する真理を探すな

次に『人は皆個性があつて、個性はそれ自身が真理であり人は個性真理体である』という部分があ

ります。これを今読んで解釈すると、人間の個性は皆違います。個性は違っていて、それ自体が真理なのだから一人一人の真理とか使命は違うのです。ですから万人に共通した真理は無いのです。つまりこの教えは「万人に共通した真理はない」といつているのです。

文鮮明は頭がいいですから、こういうことは隠しているのです。「あなたの個性が真理なのです」という教えです。占いでいうと、日干が甲なら甲が真理なのです。通変星が財星であれば財星が真理なのです。甲の人はプライド高く生きなさい、それがあなたの真理です。財星の人は商売やって儲けなさい、それがあなたの真理です。ですからこの教えは「万人に共通した真理を探すな」と本当は教えているのです。

■「授受作用」↓周りの人に迷惑をかけたリ、かけられたりしろ

また『宇宙の法則は授受作用、つまり授けて受けることで発展する』と書かれています。「宇宙の全てが」ということです。これをわかりやすく言うと「相手に迷惑をかけ、逆に迷惑をかけられて、そういう中で発展していく」と言っているのです。濃い人間関係をつくれということですよ。

濃い人間関係とは、男だったら散々女の人に迷惑をかけ、女の人から迷惑をかけられ、ああだこうだやっていくうちに、きちんとグルグルまわるようになって発展していくということですよ。「濃い人

間関係をつくれ」というのが授受作用の本当の意味なのです。自分が傷つけなければそれでいい、そういう無関心では駄目だといっているのです。

■「神の遍在性」↓メシヤは必要ない

次が『神の偏財性』です。キリスト教という名前がついている統一教会ですが、教義の内容は、実は全然キリスト教の教えではありません。これは「全ての被造物に神がいる」言っているのですから東洋の仏教的な発想です。海に川にいつても動物を見ても、石ころ一個にも神の要素が入っているという教えです。これは日本の伝統的な精霊信仰でもあります。うまくこれを取り入れていきます。この辺りは統一教会の教えの非常にうまいところです。全てに神が宿っているのだから、当然自分にも神様がいるということです。ですから、特にメシヤのような特別な救い主を求めなくても、自分にも神様がいるということなのです。

■「創造目的」↓新しい商品やサービスを産みなさい、祈ってばかりでは駄目

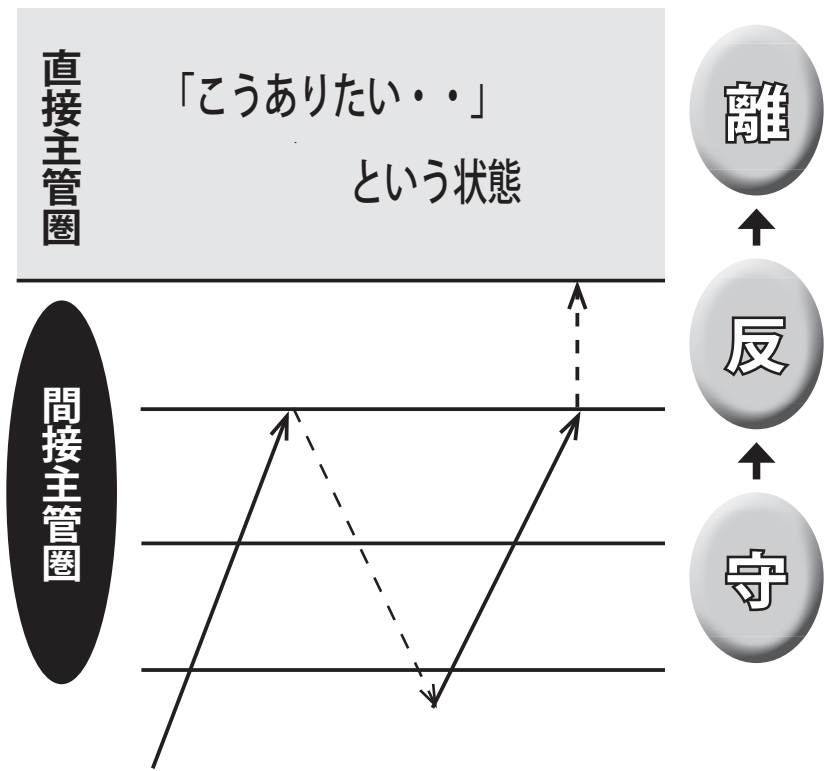
次が『創造の目的』です。これは「神が宇宙や地球・人間をつくった目的は何か？」について解説する教えですが、これを旧約聖書を根拠にして『産めよ、増えよ、地に満ちよ』ということが創造の

目的だと教えています。これは非常に生産的な内容です。聖書のこの部分は「生産的なことをやれ」といつているのです。この部分は一般のキリスト教も含めて「結婚して子供を産みなさい、増やさない」と説明するのが普通ですが、今の私の解釈では「新しい商品やサービスを発明しなさい、それを増やしなさい、地球上に増やしなさい」となるのです。「こうやって散々生産的な行動をしろ」と聖書は教えているのです。つまり「行動しなさい。祈つてばかりいるな」ということです、祈つてばかりなら、死んでからでもできるので、肉体生活のあるうちは行動しろと言っているのです。『産めよ増えよ地に満ちよ』というのは「精神的な葛藤なら、あの世に行つてからでもできるので、そんなことをやっている暇があるなら働け」と言っているのです。

■「間接主管圏」「直接主管圏」↓禅の「守反離」

こんなふうに教典の中を改めて読んでみると、実生活で使えることがいろいろと書いてあります。また私がいかに使っている部分があります。言葉がちよつと難しいですが『間接主管圏、直接主管圏』という教えがあります。【次頁図を参照】

例えば何かしら「本来こうありたい」というポジションがあるとしみます（三本線を抜けた上の部分）。



でも実際は途中の段階（下から二本目以下の位置）でウジウジしている人が多いものです。「本来こうありたい」と思うところまで登っていかないといいませんが、そこまでの途中の段階のことを間接主管圏といいます。そして次にある段階を超えるとダイレクトに主管する段階に入っていきますが、この段階のことを直接主管圏といいます。

これを統一教会では「文鮮明に従っていくことが間接主管圏だ」と教えています。「あなたがたは神様と対話できないのだから私がやっつてあげましょう、指導して

あげましょう」というのが間接主管圏の期間だということです。この期間を通過した後、やがて人格が完成し、誰でも神様と対話できる段階に入ると教えられます。そうなれば自分の判断で勝手にやりなさいと言っています。この段階のことを直接主管圏といいます。こういうふうに成長の段階が分かれていますと教えています。

■「守反離」は剣道、茶道などの「道」の分野でも使われる

実はこれは他の分野にも使える考え方なのです。例えばスポーツでも、最初は指導員の言うとおりに繰り返し真似ていきます。最初は奴隷と同じなのです。それであるとき教えをマスターして技が身につきます。さらにそれが上達すると、師匠の教えに反発していきます。最初に習ったことから離れるのです。

このことを剣道とか、茶道など昔から日本にある「道」の世界や、仏教の「禅」の世界では『守反離』と読んでいます。「修めて、反旗をひるがえして、離れる」という段階を通過して道はマスターできるという、もともとは禅の教えです。最初のうちは守の段階があります。「コーチについてそれを真似なさい、言うとおりにやれ」という段階です。やがてそれを完璧にマスターしたら自然と離れていきます。次の段階に入ると勝手に行っていいということです。実はこの間接主管圏・直接主管圏という内容は、

禅の教えによく似ているのです。文鮮明は禅の『守反離』を上手に使って、言葉を変えているだけなのです。

■フォーチュン社流の「守反離」とは

フォーチュンソフト社でもこの方法を取り入れています。ものごとがわかってない人に対しては、はじめの期間、徹底して「うちの方針を真似しなさい」と言います。好き嫌いは言わせません。それは、ものが分かってない状態だからです。有無を言わせません。そして、この期間が終わったら自由になるのです。

その次の段階になると「勝手にやれ、こちらには来るな、私に相談するな」と言っています。なぜなら自分の力量もわかるし、自分の神と対話できるのだから、私の指導はいらなくなるのです。そういう段階に到達した人を当社では指導員と言っています。

間接主管圏を超えた人には指導員の免許を認定しています。指導員になると当社を卒業していますから、私は全くコントロールしていません。100%自由です。その変わり100%の責任があるのです。間接主管圏にいる間は違います。こっちの人はながあっても面倒をみないといけない段階なのです。

■靈感商法について解説

では次に「靈感商法」について解説していきたいと思います。新聞とかメディアをみると「靈感商法は悪である。とんでもない商法である」と言われていますが実際のところはどうか？

私自身も二十年以上前、靈感商法で象牙三本セットの印鑑を三十万円で買いました。結果的に、それをきっかけに目に見えない世界の勉強を始めました。

ですから私自身にとっては「まあラッキーだったな」というのが現在の感想です。私はもともとは無神論者だったので、靈感商法をきっかけに統一教会に入って、目に見えない世界は確かにあることを知りました。また宗教的な発想を勉強し、その中で占いも勉強した経緯があるのです。今のフォーチュンソフト社ができたきっかけは二十年以上前の靈感商法にあったのです。

■靈感商法や詐欺に引かかる人の心理

靈感商法には、必ず売る側と買う側がありますが、実は売る側も買う側も必ずピーンと波動が合う共通点があるのです。共通点があるからお客さんはものを買うのです。このことは一番大事なことです。

印鑑を三十万で売ったとか、五十万で売ったとか、そういう「もの」の売買が本質ではなく、売る

側と買う側の共通点がある問題なのです。売り手と買い手の心理の深いところまでつつこんで共通点を探し出して理解しなければ、はつきりいつて靈感商法に引っかけられます。それだけでなく靈感商法に似た儲け話などにも引っかけられます。例えば「未公開株で儲かるから買ってみたいか」というような商法です。これも構図が靈感商法と実は同じです。売る側と買う側の共通点があるから買ってしまうのです。売ってしまうのです。

■靈感商法の売り手と買い手の共通点とは？

さらに深く解説すると、この共通点が何かというと・・・これが「罪感」とか「罪悪感」なのです。これを持っている人がお互いに引き合います。靈感商法の場合、売る側はもちろん聖書の教えを信じているので「人間は生まれながらに罪を背負って生まれてきている」という原罪の意識を自分の中にしっかり持っています。売る側は、自分自身はもちろんですが「全ての人類が罪を背負って生きている」と思いながら売っているのです。

買う側も心に何かしら罪の意識があると「あなたも罪を背負ってますよ」という売り手の話を信じてしまいます。売る側は、「買う人も必ず罪を背負って苦しんでいる」と思っています。「苦しんで生きていられるから、その罪から解放してあげたい」という気持ちで売っているのです。

ではこの場合、買う側にある罪悪感とは一体何でしょうか？霊感商法の場合、買い手になる多くは女性です。それも三十代から五十代の女性で、ある程度お金を貯めている女性が多かったです。そして、こういう女性が持っている罪悪感というのは水子の霊のような場合が多いのです。あるいは先祖が何かの罪を犯しているとか、こういう例が多いのです。

■霊感商法に使われる「罪悪感」

だからそういう人は、水子とか先祖について、ずっと罪を感じながら生きています。そこが引き合うのです。だから騙される被害者を本当に無くそうと思うなら「霊感商法をするな！」と訴えるだけでは駄目なのです。買う側の心理と、売る側の心理を変えないと駄目です。解決しません。

ではどう変えるかというと、売る側の人に「罪なんてないんだよ、本当は罪なんてありません」と教えるのです。買う側の人にも「罪なんてありません。水子の霊をつくった？それは罪ではありません。先祖が苦しんでいる？それは先祖の責任です。先祖がやったことは先祖の責任です。関係ありません。水子の霊はこの世に生まれて来るだけの生命力が無かったから生まれてこなかったのです」ととらえ方を変えるのです。

絶対に罪悪感を感じないように心を変えていくことです。そうする引っかけられません。これが成功

の法則です。成功の法則なのです。子供のころのトラウマを抱えている人は、必ず罪悪感を感じていて「自分は悪い人間だ」という思いを抱えて生きています。だからその思いを消すことです。実はこれが成功の法則なのです。

第十一章

「洗脳」から自己発見へ、そして商売の肝

■日本人には馴染みの薄い聖書について解説する

聖書の創世記には天地創造の失楽園の物語が書いてあります。エデンの園の話です。その内容を統一教会では『墮落論』と呼んで教えています。「墮落」とは「墮ちる」ということで、その『墮落論』の内容を簡単に説明すると「人間は本来あるべき姿から墮落したから、今のような地獄の世の中になっている」という内容なのです。

一番最初の人類のアダムとエバが罪を犯し、その子孫全員に罪が遺伝している。だから、今地球上にいる全ての人類も地獄にいるという想定です。ですから、どんなに頑張っても自分の力では本来あるべき自分に戻っていけないというのが、キリスト教と統一教会に共通の教えです。

■自力救済を否定し、救世主を欲しくさせる

つまり自力での救いが無理なのです。「一切無理」というのがキリスト教の素晴らしいところです(皮肉)

大衆にこの教えを思い込ませれば「助けてよ助けてよ」という発想になります。そうなると必要になってくるのがメシヤと呼ばれる救世主の存在です。「メシヤが欲しい欲しい欲しい」という依存心の強い状態だから、前章で紹介したマイトレーヤーのような発想がでてくるのです。ヒマラヤ山頂か

ら肉体をつくって天から降りてきた、こういうとんでもない人物がいるという発想になるのです。

■「全人類が墮落している」という教え

「100%全ての人類が墮落して地獄にいる」という前提ですから、必ずアダムとエバの罪が遺伝しているのです、救世主には他の人間と同じように肉体を持ったお父さんお母さんがいては駄目なのです。だから宇宙エネルギーでもって、ヒマラヤで肉体をつくるという超ウルトラスーパーマンでなければいけないという発想になるのです。

これは、ものすごいロジックです。マイトレーヤーも世界中に信者がいますので、西洋人はそういう内容を本当に信じています。西洋人は賢いようで、一方でこういうものも信じているのです。

これと同じロジックを利用したのが統一教会です。文鮮明は自分のことをメシヤだといっています。ですから信者は自力開運は不可能です。「すごい人に救ってもらえ」という宗教なのです。

■「すごい人物」をでっちあげる

統一教会的なカルト集団は皆こういう人物をでっちあげます。でっちあげないと駄目なのです。「あなたは自力できちんとした人間になります」という教えではキリスト教の教えに反してしまいます。

よくよく考えてみれば、情けない宗教です。

反対に東洋では「梵我一如」といつて念仏を唱えれば人も神になれるという教えがあります。西洋とは違います。西洋のものは、高いところから神様が降りてきて、それが人の形をするというもので神はもともと異次元にいてという発想です。こういう根本的な違いを知ったうえで、キリスト教を信じている連中と付き合わないと、とんでもない目に会うのです。

その墮落論では、アダムとエバを墮落させた張本人が「蛇」ということになっています。さらに、その正体はサタンとなっています。悪魔のことです。そしてキリスト教の特定の宗派や統一教会では、このエデンの園の墮落はセックスとだったと定義されています。

ですから歌舞伎町など風俗街に行くと、怪しげなピンクの看板によく「アダム」とか「エバ」「イブ」と書いてあるのは、そういう意味なのです。中に入ればエバさんがいる。女の子のことです。また同じように「ルーシエル」とか「ルシファー」と書いてあるラブホテルがありますが、この「ルーシエル」というのはサタンの名前です。つまりホテルとかで誘惑しようという発想があつて、名前が使われているのです。

ここで墮落とは本当は一体何なのを議論しても仕方ありません。これは結局誰にもわからない問題なのです。誰にもわからないことをグタグタいってもしようがありません。本当のことは地球人には

わからないのです。

■エデンの園（失楽園）の物語を解説

聖書の失楽園の物語を簡単に説明します。



アダムとエバはエデンの園にあった「善悪知るの木」に成っていた木の実を勝手に食べてしまいました。

この「善悪知る木の実」のことを、あるキリスト教の宗派は「セックス」といいますし、「リンゴ」とする宗派もあります。またある宗派では「読んではいけない神の秘伝書」だとされています。その秘伝書には、人間の肉体をつくる技術が書いてあり、それを読ん

でしまったのは、実は霊の部分しか無

い宇宙人だったというのです。そして、そのノウハウを実験して人間をつくった、と解釈しています。

■参加費三十万円の聖書の解釈セミナーとは？

実際こういう内容を解説をする講演会を開いて、経営者から参加費三十万円をとっている奴もいるのです。あるスピリチュアル系の団体の人は「これからの人類の未来」とか、そういうテーマのDVDをつくっています。動物占いの先生が見せてくれたDVDがそうですが、神様以外が知ってはいけない超ウルトラテクノロジーを、霊しくない状態だった人間が見てしまったという内容です。

なぜ見てはいけなかった、そんなに大切なものをタブーを犯してまで、人間が見てしまった理由ですが、その動機は、ゴリラとか馬が肉体を持ってパッコンパッコンまぐわっているのが楽しそうだったから、それを見て俺たちもしてみたいと思ったのが動機だということです。

よっぽどこの考えを発明した人は欲求不満だったんでしょうか？こういう話を何十万円も払って聞く人が世の中にはいるのです。これは非常に金の成る木の話です。

「善悪知る木の実の内容が何なのか？」という、謎の答え合わせはどうでもいいのです。それを食べた経緯の方が重要なので、次は経緯について簡単に説明します。

■アダムとエバがタブーを犯した経緯

地球上に初めて誕生した人類がアダムとエバでした。人類最初の男と女だから子供の状態で生まれています。お父さんお母さんはいないのです。ですからその代わりに人間の養育担当として蛇がいたわけです。蛇とは象徴で、その正体は神様の一番弟子で天使の長、天使長のことです。名前がルーシエルといいます。

アダムとエバの教育担当で、彼らが子供の頃からいろんなことを教えてきました。ところがエバが中学生くらいの年頃になると、おっぱいが出てきたりと、色気がでてきたわけです。すると天使長は男だから、ちよつとHしてみたいなと思つたわけです。

「蛇が？」と疑問に思う人も多いと思いますが、蛇というのは霊的な存在の象徴なので、動物の蛇のような形をしているわけではありません。

その霊的な存在が「エバさん私と一緒にちよつといいことしてみませんか？食べてみませんか？」という誘惑をしたのです。そのときエバは「取って食べちゃだめですよ。」と神様から与えられていた戒めを最初は守ったわけですが、しかし何度も何度も蛇がうまく誘惑するので、「一回ぐらいなら……。」と食べてしまったわけです。これが墮落の経緯です。

■ 天使長ルーシエル、エバ、アダムの間で何があったのか？

「食べると結果どうなるか？」ですが、まぐわいには愛の力というのがありますが、その愛の力によって相手から知恵がコピーされます。ですから結果、エバに知恵がついてしまいました。神様の一番弟子であるルーシエルの知恵がついてしまったのです。その結果エバは「しまった」と思ったのです。「神様の戒めを破るのはちよつとまずいことをしてしまったな、なんとかしてうまくごまかさないといけない。どうやってごまかさうかな」と思い、次に「アダムを誘惑してしまえ」と発想してしまいました。

そしてエバは次に「あなたも食べませんか？」とアダムを誘惑したわけです。アダムはエバより知恵がついてない状態ですから「じゃあ食べようか」と食べたわけです。こういう物語です。

そのとき神様はじーっと見ていて、アダムとエバが食べた後に「エバよエバよ何で食べたのか」と怒ったのです。そしてエバは「私たちの育成係の天使長が食べなさいといったから食べました」と言いました。

■ 「善悪知るの木の実」の正体解明には意味がない

また神様は「アダム、アダムなぜ食べたのか？」とアダムにも聞きました。するとアダムは「あな



エバを誘惑した蛇の正体は、天使長
ルーシエル（＝ルシファー）とされる

ここでエバは、天使長ルーシエルに誘惑されてやったことだから「私には責任ない。蛇が誘惑したのだから蛇が悪い」と言ったのです。またアダムも同じように「私が悪いんじゃない、あんたが決めたパートナーが誘惑したんだからエバが悪い」と言ったのです。まるで離婚裁判のようです。アダムは結局、神が悪いと言っているのです。責任転嫁です。これが人類最初の家庭で起

■人類最初の家庭で起こったこと

たの決めたパートナーのエバが食べるといったから食べました」と答えました。そして神様は「バカヤロー！」怒って、二人はエデンの園から追い出され地獄に行ったという物語なのです。そして各宗教は大昔から、この「善悪知るの木の実」が本当は何かということ、ああでもないこうでもない議論していますが、実はそのことはたいした問題ではなくて、この経緯が問題なのです。

こつた物語です。

■「失樂園」の物語、「何があっても責任を転嫁するな」を教訓とせよ

だからこの物語は「何があっても責任を転嫁するな」ということを教えているのです。「全ては自分の責任である」と認めた人は開運するのです。何かあったときに「親が悪い」「上司が悪い」「国が悪い」「総理大臣が悪い」と全部人の責任にしてしまう人はアダムやエバと同じことをやっているわけです。そんなところに運があるわけありません。

こういう理解が一番大事です。おそらく西洋人の中でも、聖書を読んでこういう理解をしている人達が成功しているはずです。「善悪知る木の実が何かな？」なんて発想はしていません。成功している人は、「100%何があっても責任は、自分の判断がきっかけになっているはずだ。不幸な人は、不幸な判断を繰り返した結果、不幸になっているんだ」そういう発想になっています。

■「世間体」が気になるのは自己責任がない証拠

「世間体」も実は同じです。世間体を気にするとか、周りの評価を気にするとか、こういう発想は

責任を持つてない人の発想です。自分の行動に責任を持つてないから、こういう思いが出てくるのです。世間から非難されるのが怖いとか、「怖い」という言葉がでてくると、これはもう責任を持つてない証拠です。おばさんなんか皆こうです。よく「世間からの非難が怖い」みたいなことを口にします。この「責任を持たない」という発想は、人類最初のアダムとエバが犯した罪そのまままで生きていることと同じですから、そこに運があるはずなのです。以上が人類最初の物語の解説です。

■歴史上初の殺人、アベルとカインの物語を解説する

次にアダムとエバから子供が何人が生まれていきます。聖書にはエデンの園の話の次に、長男と次男の物語があります。それをカインとアベルの話なのですが、カインとアベルという二人の男の子のことは結構西洋の心理学でも出てきます。カイン型の人間とかアベル型の人間とか、いわゆる「ゾンデイの心理学」などがそれです。文学の「怒りの葡萄」、映画の「エデンの東」もそうです。これらは聖書からインスピレーションを受けています。

■カインは農業、アベルは牧畜をしていた

アダムとエバから最初に生まれた男の子がカインという男の子で、次に生まれた男の子がアベル。

どっちが実力がありそうでしょうか？

普通の家族の順番だと長男が一番で、次男が二番みたいな感じですよ。聖書でも長男カインの方が実力者です。

では、カインとアベルのどちらが人気があるでしょうか？

実際の家庭でも大抵人気があるのは下の兄弟です。下の子供のほうが何かと要領よくなります。聖書でもアベルの方が人気となっています。

次は仕事です。カインの仕事が農業で、アベル牧畜でした。では、どっちの仕事のほうが大変でしょうか？作業量、労働時間で考えてみてください。

聖書によると、あるときカインは神様の前に農作物を供えました。仮にここではお米にしておきます。アベルは神様の前に肉を備えました。このとき神様が「いいものをつくってくれたありがとう」と言ってお供えを受け取ったのはどちらでしょうか？

■カインがアベルを殺そうと思った理由

実は聖書では、神はアベルの肉だけを受け取っているのです。このときカインとアベルの気持ちを想像して下さい。カインはどういう気持ちで米をつくったでしょうか？アベルはどういう気持ちで肉



上の絵は人類最初の殺人事件、カインとアベルの物語を題材にしたもの、聖書には生々しい人間ドラマが満載されている

をつくったか？と考えてみて下さい。

カインは毎朝五時に起きて、田んぼに苗を植えて、草取りして……。農業のほうが牧畜より、やられている感じがしませんか？

聖書にはそういうことは細かく書いてありません。これは私のオリジナルです。聖書に書いてあるのは、牧畜業者のアベルの供え物が取られたと書いてあります。しかしカインの供え物は取られてなかった、だから「こ

のやろう！」と怒って、長男が次男を殺してしまっただけです。こういう神話は内容が過激です。

■カインとアベルの物語、統一教会流の二分思想的の解釈

これを文字通り解釈したのが統一教会です。へんちくりんに解釈したというか、他の神学も似たり寄ったりですが「カインが悪だから、悪の存在だったために神様は供え物をとらなかつた。次男は善だからとられた」という解釈です。善と悪とを分けなければキリスト教は始まらないのでこうなるのですが、カインが何故悪なのかという理由も、もの凄い「ねつ造」理論なのです。驚くほど。捏造なのです。

■カインを悪にする、もの凄い「ねつ造」理論を解説する

まず最初にエバが天使長と関係をもって生まれたのがカインとみなします。そう当てはめるのです。次にエバは本来のパートナーであるアダムと交わったのでそれをアベルとみなしているのです。

つまり長男をサタンの子供と認定したわけです。そして悪と善という理屈です。さらにこの考え方を思いっきり発展させて実生活にあてはめています。

聖書では兄のほうに力があつたわけですから。おそろく牧畜というのほうまくやれば、ほつたらかしか

ら農業と比較すると楽なのです。農業は休みのない作業ですから、きついのです。きつい仕事をしているお兄さんが、楽な仕事をしている力の無い弟に従えということになるのです。

カインは悪の存在なんだから、そんな奴は、毎日楽しんで若くて人気のある奴（アベル）に従えという理屈に発展するのです。

■「実力者は、若いリーダーに従え」という理論

これが実力の無い統一教会の組織にとっては絶対の理屈なのです。実力の無い、あんぽんたんの幹部がいるわけです。もともと統一教会は、大学生などの若いときに内容を聞いて入ってくる人が多かったのです。そして年配の方、社会経験のある人が後から後輩として入ってくるのです。

私が入信した頃も、そのリーダーは年下でまだ二十三歳くらいの現役の大学生でした。そういうリーダーといわれる人達が沢山いました。そういう若者が年上の人を指導しないといけない仕組みだったわけです。年上を年下が指導するわけですから、若い奴に従えという理屈が必要になるわけです。「若い奴に従うのがカインとアベルの原理だから、あなたは実力はあるんだから、実力のない奴に従え」ということなのです。このカインとアベルの理屈はそうなっているのです。

例えばあるとき、富士通で宇宙工学をやっていたという技術者が入信してきました。このロジックは、そういう人がきたら二十二歳の社会経験のない若い奴に従えということです。なぜならお前は実力があるからカインだから、実力があると自動的に悪を象徴する立場になるのです。社会人として儲けている人ほど悪なのです。すごい理屈です。

年配者が若い人に従うという、この理屈は今でも通用しています。今でも各教会の責任者が若い三十代で、後から入信して来た五十代とか六十代の人がいるのです。中高年の人が若い奴に従っているのです。

■アベルの供え物が取られた理由、フォーチュン流解釈

実力者のほうがより罪深い立場という捏造です。ところがよくよく考えていくと、おそらく私の価値観ですが、日本の農業をやっている人と、牧畜をやっている人をみたら一発で理解できます。それぞれの現場をみればわかります。農業も牧畜もやったことない奴だからこういう捏造理論にひっかかるのです。実際に農業と牧畜の両方をやった人はこんな理屈にはひっかかりません。

農業をやっている人は、はつきりいってムシが好かない人間が多いです。「私は苦勞している。そしてお前は苦勞してない」という嫌な顔しています。嫌な奴なのです。例えば農業をやっている人の

ところにいつて「土地を貸してくれ」と頼んでもなかなか貸してくれません。ところが牧畜をやっている人で、うまくやっている人は結構楽だからいい奴が多いのです。特に放牧している酪農家は結構楽だから、いい奴が多いのです。神様からみるとニコニコしている人の供え物を取っていきたくなるのです。嫌な奴からもらった嫌な米なんか食いたくないのです。だから神様はアベルのほうをとつたのです。これがフォーチュン流解釈です。結論は嫌なことだったらするなどということ。やめてしまえばいいのです。

本当は実力もないのです。実力があつたらもつと考えます。実力があつたらおそろく自力で畑を耕したりしないです。牛とか馬を使って耕運機の代わりに使っているでしょう。楽して儲けることを考えて工夫をしているはずで。

■常にキリスト教圏への敵をつくり続ける思想

何でもかんでも善と悪に分立しななければならない、というのがキリスト教の教えですから、今の時代だと、キリスト教圏の敵はアルカイダ、テロ組織、イランとかリビアとかベネズエラとか北朝鮮とか、悪の国をつくらないと成り立たちません。悪の人物をつくらないと気がすまないのです。これはこの世からキリスト教が消えてなくならない限りこの発想はなくなりません。

■「まぐわい」への二分思想的発想は子供をバカにする

そういう二分思考の中で育ってしまうと子供もかわいそうです。未だにセックスが罪という考えは根強くあります。未だに宗派によつてはあります。これには深い意味があるのです。なぜそうなのかという理由ですが、これが半分は事実だからやつかいなのです。

まぐわいというのは愛の力とよくいわれますが、愛の力で愛によつて一体になれば相手から先方の要素を受け取るように人間はつくられているといわれますが、これは本当だと思います。

ここまではまともなものです。ところが最後にオチがあるので、これも分離させます。今まで散々説明したように、二分思考には必ず善と悪が存在するので、これも分離させます。

愛の力の反対の力は理性の力です。本来、理性の力より愛の力が大きいのです。人間はそもそも理性的な存在ではないのですが、禁欲的な宗派では「だからこそ理性の力を磨く必要がある」と教え「理性の力が愛の力より大きくなる」という状態にしないといけないと教えるのです。

■愛の力を理性の力で押さえつける思想

愛の力は強く、理性の力は弱いのですが、理性の力が弱いと人類世界がごちゃごちゃになってしまうので逆転させなさいということです。ということは、相手の異性と交わり合いたいという欲求を捨て

て理性の力で生きなさいという理論です。だからセックスをするなどということなのです。セックスしてしまおうと、理性の力が負けたということ、あの罪を犯したアダムとエバと同じだ、負け犬だ、罪人だということなのです。

これは可哀想な理屈で、こういう親の下で育った子供はまぐわいに対して罪の意識を持ってしまいます。罪の意識を持つて生活してしまいます。ありもしない理性の力で愛の力を抑えつけるから、これを実際にやってる人は皆バカみたいな顔をしています。カトリックの神父や神職も皆そうです。

セックスを我慢すると人間はバカになってしまいます。ある反統一教会の評論家が出て、統一教会のことを「思考停止型」の組織と言っていました。ズバリ当たっています。愛の力をへんちくりんな理屈で抑えているので、思考停止になってしまおうのです。

■「まぐわい」のフォーチュン流解釈

愛の力とは統一教会では男と女の結合としかみていません。これをフォーチュンソフト流ではどう解釈するかですが「男はやさしい女とまぐわいなさい、そうすれば相手から、先方の要素を受けて男は優しい男になる。高慢な女とまぐわうと男も高慢になる。女は道（使命）を求めている男とまぐわいなさい。そうすれば人生楽しいぞ」とこうなります。道を求めている人というのは恨みが無いので、

自己責任で全部処理するようになるので、誰かに対する恨みは消えていくのです。つまり心の中が平安の状態です。だから人生が楽しいのです。

道を求めている男の人は女性から見ると魅力的なのです。女にもてます。こういう格好したら女にもてるみたいな発想の人はもてませんが、何かに無我夢中っていうのはもてるのです。「女の人が恋愛するのなら道を求めている男がいい男だね」と日本一の金持ちの斉藤一人さんも言っています。的を得ています。

■「いい人と結婚したい」では「いい人」とは？

「いい人って何ですか？」とか「いい人を探して下さい」、「いい人と結婚したいです」こういう相談が女性から山ほどやってきます。「いい人」というと普通は、お金をいっぱい持っている人、安定した職業の人、うるさい爺さんじい婆さんぼあがいない人、嫁姑関係のない人などですが、こういう「いい人」というのは、「自分にとつて都合のいい人」なのです。自分にとつて都合のいい男とは、相手にとつては都合の悪い女となるのです。それがわからないのです。自分に都合のいい男がいい男だと勘違いしているのです。そうではなく、いい男とは道を求めている男のことです。だから、あなたにとつて都合のいい存在とは限りません。このことがわかると本当に幸せになります。

■株式投資で勝てるのは理性の力が感情の力より強い人

実際、現実の世界でも理性の力と感情の力の葛藤があります。特に、不安や恐怖が心にあると、普通は絶対に不安や恐怖が理性に勝ってしまうのです。そこで、この理性の力を感情の力より大きく展開できる人は大体、株で儲けています。株をやったこと無い人にはわかりにくいですが、これが出来ている人はずいぶん儲けているのです。例えば二〇〇五年くらいからやっている人はずいぶん儲かっています。逆に恐怖に襲われてる人は、大体大失敗しています。恐怖に襲われている人は、調子のいいときには逆に傲慢になるからです。恐怖と傲慢はセットなのです。

■株式投資で利益を出す人の売買のタイミング

二〇〇五年は日経平均が一万七百万くらいでした。二〇〇六年、二〇〇七年の途中までは一万八千万くらいまで上がりました。この期間は誰が株を買っても儲かったという時代でした。IPOも全盛で、未公開株を買えば誰でも儲かるみたいな本が本屋にいっぱい出ていました。そして皆に傲慢性がひろがっていききました。ところが、二〇〇七年の夏以降からガクンと下がってしまい二〇〇九年三月には六千九百万くらいまで下がってしまいました。

このとき傲慢になっていた人は、利益が出ていたのに、この期間に「ああどうしよう、どうしよう」

と「また減ったまた減った」と恐怖が自分を襲って「でも、もうちょっとしたらあがるだろう」そして、「とんだん」「あーあー」と言って沈んでしまったのです。最後にどうしようもなくなった頃に売って、以後株はしないという人が実際多いのです。で、今は一万八百円くらいまで上がってきましたが、こういうときに恐怖に打ち勝つ癖のある人は、ドカーンと下がってくるとそろそろ俺の出番かなと準備を始めます。そして一回目を買ってしまふ、さらに下がるともう一回買ってしまおう、こういう買い方をしているのです。二〇一一年の三月でもう大底（陰の極）は脱しました。こういう人は今頃はもう何もしないで陽転を待っているだけです。

■二分思考をさらに深く解説する

最後に善と悪を分ける思考の説明をして「そうなんだ」と聞いても、その発想を本当の意味で理解するのはなかなか難しいので、具体例を挙げて説明していきます。

例えば韓国という国は善でしょうか？悪でしょうか？統一教会では文鮮明が生まれたから善側となっています。日本は韓国に侵略したから悪なのです。では中国はどうでしょうか？中国は共産党で神を否定する主義思想だから悪という幼稚な理論です。これははっきり言ってしまうと高校生レベル

のロジックです。

■統一教会によると「韓国（朝鮮民族）は善」これは本当か？

北朝鮮ももともとはキリスト教が盛んな地域でした。特に平壤は盛んでした。だから文鮮明も若いときに平壤に行ってキリスト教の宣教をしています。

キリスト教が盛んということは「私を救ってよ」という、ろくでもない大衆が多いことなのです。ろくでもない大衆が多いと、メシヤを求めるようになるのです。ですから北朝鮮にもメシヤがいますよね？金日成でした。依存心が強い民族には一人の独裁による国家が成立しやすいのです。

■金日成が独裁体制を築くことができた理由

北朝鮮は主体思想といいますが、これは金日成は神であるみたいな思想ですけど、キリスト教の基盤があると、こういう独裁的な思想も入りやすいのです。潜在的にメシヤを欲しがっているからです。韓国もキリスト教の普及率がアジアでトップクラスです。人口の三十%以上がキリスト教で、仏教より多いのです。朝鮮民族は実はそのような情けない民族なのです。

だから昔のロシアからも狙われたのです。そのことが日清、日露戦争の引き金となりました。ウラ

ジオストクの意味は「東方を支配する街」ですから、ロシアはいつも朝鮮半島を狙っていて、その先の日本も侵略したかったのです。朝鮮半島がきちんと国家として独立しておけば、日本が攻めていかなくてもよかったです。仕方なく日本は予防線で韓国を支配しないといけなかったのです。実際にロシアが攻めてきたときに朝鮮半島の王朝は、中国に「助けてくれ」応援を頼みました。情けない民族です。

ところが韓国人一人一人は強いです。日本人一人と韓国人一人では絶対日本人は負けます。ただ日本人三人と韓国人三人なら日本人は勝ちます。韓国人はバラバラなのです。会社に行っても誰も社長の言うことなんか聞きません。そういうのが韓国人です。個人としては強いですが、まとまると弱いのです。だから国家としても弱いのです。

■開運する人の「健全な脳」とは？

最後に「どうやったら開運するか？」について解説します。

ここまで話してきて結論を先に言うと、駄目な人は西洋の考え方の悪いところと、東洋の思想の悪いところの両方を持っているから開運しないのです。西洋がいい、東洋がいいということではありません。何を学んでも健全な脳を持っている人は、結果の出る脳になっていますし、へんちくりんな脳

を持つている人は、東洋を学んでも西洋を学んでも必ずボツになるのです。さっきは西洋のキリスト教精神が駄目みたいな感じでいいましたけども、本当に聖書を読むと、教会なんか行かなくてもいいという発想になるのです。神様と人間はマンツーマンの契約で生きていきなさいというのが聖書の根本の教えなのです。

契約というと西洋っぽいですが、キリスト教圏の国は基本契約世界です。組織や教会は関係ないのです。カトリックでもなんでも関係ないのです。私は神様との契約で「これやります」と、たった一人で、個人で責任でもやっていくということです。失敗しても誰のせいにもしないのです。これがまっとうな人です。

■「何を学ぶか」ではなく「誰が学ぶか」が重要

そういう健全な脳を持っていると、キリスト教精神を学んだとしても成功するのです。ところが不健全な脳を持っていると、「教会に行かないといけない」とか「聖書には献金しないといけない」と書いてあるとか、そんなところばかりが気になって、そういう部分を掘り出して、わざわざ自分で駄目な人生にしてしまうのです。

東洋も同じです。協調性というのは「根本は困っている人を助けなさい」ということなのですが、

この発想のいい面が出ると、会社の社長になったとしても慈愛のある会社の運営をしていくでしょう。ところが不健全な脳を持つている人が東洋の思想を学んでしまうと「皆と同じでないから私は駄目」とか、世間体とか周りの評価を気にするようになるのです。だから駄目な脳を持つてる奴は東洋を学んでも西洋を学んでも、大真理を学んでも駄目なのです。何を学んでも関係ない、誰が学ぶかが重要なのです。

じゃあどうしたらいいんですかという結論をいいます。はっきりいって成功する人は何を学んでも成功しますし、失敗する人は何を学んでも失敗します。これが結論です。

■洗脳を溶く具体的な方法とは「商売」をやってみること

本当に自分を変えようと思ったら自分一人で商売を試みる事です。たった一人で。これが結論です。そうすると今までの洗脳が溶けます。

なぜかというと、まず商売というのは100%自分の責任だからです。自分の責任でやらないといけません。つまり代表取締役社長をやるのです。自分でお金を集めてやるのです。その代わり100%の自由です。朝起きてから夜寝ている時間まで自由です。昼間からワイン飲んでもOK、夜の銀座に行ってもOK、ベントを買ってもOK、何やってもいいのです。求められるのは結果だからです。

そして、あなたの意志は求められません。意志も無関係です。サラリーマン時代は「私これやるわ、あれやるの」「私こんなことできるの」「私こんなことしようと思うのよ」「私こんな資格とってるの」私のやりたい意志のリストアップです。サラリーマンは、こういうことを沢山言っていればいいのです。ところがこれではお金が入ってきません。収入が無いと乞食になってしまふのです。商売というのは結果だけですから、「自分が何をやりたいか」は無関係なのです。「〇〇をやった」「いくら儲かった」これだけです。だから商売はいいのです。

■「どうやったら売れるんですか?」という質問に答える

ここで言う商売の結果とは何か解説します。商売で結果を出すためには「あれやるの、これやるの」という発想をしなくなるのです。ちよつと難しい言葉を出しますが、これはユニクロの会長兼社長の柳井さんの言葉です。商売とは何かというと「顧客の創造」なのです。ですから、お客さんをつくるのです。すなわち「私のやりたいこと」こんなのはどうでもいいのです。「私これやるの!」と言って、お客さんが財布を開いて一万円くれますか?、くれないうです。関係ないです。片っ端からやっていくとこういう言葉が減っていきます。「私これ売の、売の」って言ってもお客さんは買ってくれません。

「どうやったら売れるんですか?」「占いビジネスやりたい、どうやったら売れるんですか?」そういう質問は多いですけど、こういう発想をしている間は、まず儲かりません。

これは皆、売る側の気持ちだからです。売る側の気持ちであって、お客さんはそんなことはどうでもいいのです。お金を出すのはお客さんです。金を出すほうが、なぜ売る側の気持ちを気遣う必要があるのでしょうか?、ですから買う側の気持ちにならないと絶対にビジネスは駄目なのです。これが商売の第一条件です。

■儲けを出すには「お客さんは困っていることはないのか?」「こればかりを考え続ける

買う側の気持ちになること。こればかりを考え続けると結果は出ません。つまり「お客さんは何が欲しいのか?」「こればかりを考えるようになるのです。つまり「困っていることはないのか?」「困っていることがあるなら、それに合う商品とかサービスは何か?」という発想になるのです。それで、お客さんをよくみるのです。「何がお客を動かしているのか?」という感じで、買う側の気持ちしか考えません。サラリーマン時代とは発想の大転換が必要です。

サラリーマンはこういう考えを持ってません。こういうことを考えている人はまずいません。それは上司から方針が来るからです。つまり会社の方針です。会社が売れといえば嫌でも何でも、好きになっ

て売るしかないのです。本当に自分が好きになった商品が売れるサラリーマンは、ほとんどいないと思います。嫌でも売らなければ給料がもらえません。

■占いに関心を持つ人の特徴

フォーチュンソフト社の場合だと、お客さんは開運したいのです。本当は、開運したくて困っているんだけど、ダイレクトに答えを言ってしまうと、「今のあんたが駄目だから開運しないんだ」です。ただそれだけです。あんたが駄目だから開運しないんだと、答えはそれだけで終わってしまいます。

だって今のあなたの判断の連続が、駄目、駄目、駄目、駄目という結果なんだから、あんた自身が駄目というのが結論です。

占いソフトを提供している私が言うのとビックリするかもしれませんが、まず占いなんてものに関心を持つのは皆そういう人達です。不幸だから占いに関心を持つのです。幸せな人は、占いに関心を持ちません。「未来がどうですか？」なんて関心ないのです。今がハッピーな人の発想はそうなのです。不幸だから未来を知りたいがるのです。今のあんたが駄目、発想が駄目、脳が駄目。駄目、駄目、駄目なのです。「じゃあ脳を移植しよう」なんてことをダイレクトにいつてしまうとモノは売れないのです。だから常にお客さんを何が動かしているかを考えないといけません。それが世間体とか、社会の評価

とか、そういうものなら、そういうものが必要なら、そういうものをつくってあげないといけないのです。

■何がお客さんを動かしているかを考える

フォーチュンソフトの初期の商品は「阿部泰山流に対応しています」とか「透派に対応しています」と言ってきたのも、阿部泰山流と透派というのは日本の二大流派ですから、世間体とか権威を気にしているお客さんが買うのです。

内容が嘘でも、使えなくても、開運できなくても買うのです。だってお客さんがそういうものに動かされているからです。お客さんにとって本当に必要なものを、お客さんは「いらぬ」と言うのです。はつきり言って、「あなたに必要なのはこれだ！」と言っても、「いらぬ」というのです。だからオブラードを百枚くらい重ねて世間体の見栄えのいいものにしなないと買ってくれないのです。つまりどこまで行っても買う側の気持ちにならないと、モノは売れないのです。

■「正しいことをやっていたら商売はうまくいく」は有り得ない

もう一つ、商売をやると「正しいことをやっていたら商売はうまくいく」ということは絶対にならない

ということがわかるようになります。

自分が「正しい」と思うことをやっていれましょう。こんなことはありません。特にこれは正義感の強い人が陥りやすい罠です。「あんたが正しいと思ってることは実は正しくない」と、打ちのめされます。誰があなたを打ちのめすかというと、地球の主です。地球を支配しているのはあなたではありません。地球の神です。地球の神が正しいと思う、地球の神がつくったルールに合っていればうまくいくのです。地球の神のルールに反すれば、あなたが正しいと思っても、うまくいかないのです。ですから地球の神のルールというものを嫌という程知るのです。

■地球の神の正解に向かうと、地球のルールがわかってくる

だいたい地球の神とは肉体を持つている存在です。地球は海あり山あり河あり動物あり、肉体だからです。つまり行動しろということです。「行動しろ」と地球の神は強烈に要求しますから、とにかく何でもかんでも行動しないといけません。行動すると地球の神が「実はそれは違うよ」と教えてくれるのです。こういうふうに教えてくれて、だんだん地球の神が正解だという方向に勝手に行くのです。地球の神の気持ちが変わってくるのです。これがわからないと、どこまでもやられます。殴られる感じですよ。どこまでも落とされて、ホームレスまで行きます。ホームレスになってもわか

らない奴はまだまだ行きます。はつきりいって地球の神は暴力の神です。暴力的にあなたを殴ってきます。環境を変えていきます。今の不景気もそうです。地球の神が怒って暴力的になっっているのです。一番大切だと思っっているものが奪われたりもします。

■常に新しいことに挑戦し続けることで安定する

そういうことを繰り返していくと「ああこうやればうまくいくんだ、わかった！」という瞬間があります。「これが正しいことなんだ、正しいやり方が分かった」という感じですよ。ところがそれを三年継続してみなさい、三年すると駄目になるのです。

「分かったの？、じゃあ次行くね」という感じで、わかったらすぐ次の問題がきます。またわかったら次が来ます。ですから、どこまでも、つまり、いつもいつも挑戦するしかないのです。永遠に死ぬまで新しいことに挑戦するしかないのです。永遠に分からないものに挑戦するしかないのです。不安でも何でもやるしかないのです。そうでなければ「そろそろこれを通用させないよ」と地球の神が怒ってきます。挑戦し続けている人が安定するのです。そういう状態に安定があり、不安感がないのです。

■「収入が安定するにはどうすればいい?」という質問に回答する

この前あるサラリーマンを辞めて起業した人に「収入が安定するにはどうしたらいいですか?」と聞かれました。「私はサラリーマンのときに毎月四十万円くらいの給料をとっていました。独立しても同じくらいの年収はなんとか確保しています但不安定です。これを安定させたいのですがどうしたらいいですか?」と質問してきたので「いつもいつも新しいことをやらないから安定しないのです」と答えました。すると彼は目を白黒させていました。

この人は、そういう安定は欲しくないようなのです。「いつもいつも新しいことに挑戦する」ことと彼のイメージしている「安定」がつかないのです。「いつも同じことをして安定したい」と思っているからです。私に言わせれば「つまりあなたは、不安定を求めているのです」となるのです。同じことの繰り返しで安定するのは死人です。死人の発想です。ゾンビ人間の発想です。なんだかぬるま湯だと思ったら沼だった、沼だと思ったら底なし沼だった、こうなるのです。

■うまくいく「型」を自分で滅ぼすことが重要

このことが名軍師だった秋山真之の言う、うまくいく「型」のことです。だいたい商売していくと、

こうすれば売れる、こうすればうまくいくといった「型」を発見するのです。誰でも商売をするとい回くらいは成功します。ここまでは来ます。スポーツも一緒です。勝てる型があるのです。それが見つかるときがあるのです。そして次に、滅びるときがくるのです。このときに「型」を滅するのが勝つコツです。自分で型を滅ぼさないといけないのです。

■いつまでも「型」にこだわり続ける官僚

いつまでもこの時代にこだわっているのが日本の官僚です。高度成長時代のうまくいったときの仕組みを、未だに引きずっているのが日本の官僚体制です。それを崩そうとしているのが民主党です。特に小沢さん、官僚社会を完璧に無くそうとしているのですが、最近捕まりそうです。政治家はそもそも金が無いとやっていけないものなのです。

検察は陥れ方がワンパターンです。国民は「またかよ、鈴木宗男のときと同じじゃないか、女か金か、ちよつといい加減にしるよ」と思っています。

ところが一方で、いい加減にしると思っていない人も実は多いのです。この前保険屋のおじさんが来ていろいろと話していたら、「最近、民主党の小沢さんとか鳩山さんとかいろいろテレビでやりますけど、大丈夫なんですかね？まともな政治家なんですかね？」という質問をしてきました。テレビの

NHKのニュースとかに最初に出て、覇気の無い鳩山さんの表情ををアップで写すと「鳩山さんも悪い人なんですかね？」と多くの人は思い込んでしまうのです。

いつまで経っても国民が引つかかるから官僚もメディアを使うのです。ですから我々はそういうニュースが出た瞬間に一斉にテレビを消せばいいのです。視聴率が1%になれば、「ああもう駄目か」と思つてこれをやらなくなります。それぐらい国民は官僚に対して全員が反発しないと気がつかないのです。

■商売をすると「誰かからうまくいく方程式を与えられることは無い」のがわかる

それで商売をしていくと、「誰かからうまくいく方程式を与えられることは無い」ということがわかります。「どうやればうまくいきますか?」「どうやればいいですか?」という質問ばかりですが、商売をやってみたら、人から聞いたものが皆駄目なのがわかります。自分で発明しないと通用しないのです。

いろいろ失敗を繰り返すと、自分の脳にいろんな現象が入っています。私の場合、例えば税務調査が入った、お客さんからクレームが入った、あるいは儲かった、あるいはだまされた、商売をやっていくといろんなことがあります。これを結果的に吉にするか凶にするかは、その人の脳の反応次第

です。

■脳の反応の仕方が吉か凶を決める

何かしらの出来事が、あなたを不幸にしたり幸せにするものではありません。事實は万人に平等なのです。それに対して脳がどう反応するか、脳の反応の仕方が吉か凶かを決めるのです。それで、だいたいうまくいかない人の発想は「自分が被害者」というものです。トラブルやアクシデントなど、何かの出来事が起きた後どうするかで、その人の発想がわかります。案外、被害者のふりをする社長も多いです。「社員が駄目だから、役員が駄目だから、取引先から騙されたから」と被害者のふりをしているケースが多いのです。

■脳の反応が吉に転用する事例

一方何があっても、脳の反応が吉に転用する人には、だんだん悪いことが減ってきます。これは本当です。

フォーチュンソフト社の場合だと、何年か前にひどい税務調査があつて、松山税務署と喧嘩して五百万円の請求を0円にしたという出来事がありました。このとき国家権力の怖さを思い知りました。

ターゲットはいつも中小企業で、特に利益の上がっている会社が狙われているのが骨身にしました。だから数年前に法人税が改正されて、特殊同族会社に対する特殊な課税の法律ができましたが、このことをほとんどの中小企業のオーナーは知りませんでした。私はその税務調査の件以降、こういうことにアンテナが張るようになってしまったので、いち早く情報をキャッチしました。

■過去の出来事を教訓にアンテナが情報をキャッチする

税制の改正によって株主が親族だけの会社は特殊同族会社と認定されます。そして特殊同族会社は社長の給料に対しても法人税をかけますという法律です。例えばフォーチュンソフト社の売り上げが仮に年一億としましょう。ところが非常に開発経費がかかり二千万円の赤字となったとします。こうなると法人税は通常0円です。

ところが社長の給料が一千万あったとすると、そこから所得税が約二百万円くらい請求されます。特殊同族会社の場合、給料に対してさらに税金かけますよという法律です。ですから法人税が実質二百万円請求されるのと同じなのです。国が給料に対して税金をかけてくるのです。これは赤字でもなんでも金払えという法律です。どんなに儲かってなくてもお金は持っていくぞという法律です。

この恐ろしい法律が三年前にできたので、私はあわてて株主を探しました。あまりにもひどい制度

なので、これも廃案になる予定です。ところが来年か再来年に名前を変えた、同じような法律ができるという話もあります。どこまでいっても、株主が親族だけとか、株主が少なくて役員が一人、二人というような会社からはとことん取ってやる、という意識なのです。税務署の職員はそういう連中です。悪魔的な発想です。

■国や税務署の悪魔的発想

国のやっつてゐることは悪魔的なものが多いです。宗教の献金やヤクザの納金と一緒にです。

このときに賢い経営者は特殊同族会社にしなかつた人もいます。株主を増やしたのです。ただし税務調査入ると「株主らしいことをしましたか？株主らしい権利の行使をしましたか？」とヒアリングするのです。税務署が株主のところに行つて「何もしていません、お願いされて株主になりました」と言うと、株主とは認定しませんとなるのです。税務署が株主を否認するのです。こういう税務調査をしているのです。

だから当社では株主を優待しなければいけないのです。例えば品川の事務所を、株主になっている占いに安く貸すとか、これも税務署から見ると株主優待です。こういうことをやらないと株主ではないと認定されるのです。本当に悪魔的です。

■成功法則の一番重要なポイントとは？

最後に成功の法則の一番重要なところを紹介します。

靈的に言うところプラスの波動を持った霊と、マイナスの波動を持った霊の境目に生きている人間がいます。そしてマイナスの波動を持った人間とは被害者です。100%被害者です。うらみです。ねたみです。自分は必ず被害者です。私は全く悪くないのです。こういう連中は沢山います。

一方、ちょっとプラスの波動を持った非常に心が平安で、100%自己責任で人生を生きた愛嬌のある女性とか、度胸のある男性の霊がいます。そして、こういう平安や度胸の思考をしていると、そのプラスの波動にアンテナが合うのです。

ところが「だまされた、しまった」とか「お金を持っていかれた、税務署に入られて余分にお金を持っていかれた、くそっ」「お客さんからこんなクレームがあった、どうしようどうしよう」と被害者ぶっている。「そうだろ、私もそうだったのだ」とマイナスの地獄霊が来てしまうのです。一旦これが来ると数十万、数千円という霊が一気にやってきます。ものすごい数が来ます。そしてくつつき癖がきます。

一つそういう思いを持つと一万個くらいになる感じですよ。そして、どんどんどんどん人生が悪くな

ります。逆の場合プラスの霊が増えます。プラスのほうに。増えるというか、上っていく感じになります。実はこのことを西洋では成功の法則の中でも、最も重視しているところなのです。ですから現実生活の中で何が起こっても関係ないのです。その出来事に対する脳の反応で人生が決まるのです。はい、これが結論でした。